

日本映画放送株式会社 第82番組審議会議事録

1. 開催年月日: 令和4年8月23日(火) 15時30分～

2. 開催方式: web会議ツールを用いて実施。

3. 委員(順不同・敬称略) web会議ツールにて出席: 鈴木 嘉一・尾形 敏朗・砂川 浩慶・宮崎 美紀子・神田 由築・西 正・山川 鉄郎・倉田真由美

放送事業者: 代表取締役社長 石原 隆

専務執行役員 山口 真

常務執行役員 宮川 朋之

編成局長 小川 英洋

制作部長 秋永 全徳

編成部 三瓶 祐毅 三品 貴志 八巻 洋平

制作部 小林 良弘 荒瀬 佳孝

番審担当 澤 尚志 後藤 健(記)

4. 議題

(1) 審議事項: 時代劇専門チャンネル「新たな鬼平・松本幸四郎特別番組 第二弾～二代目鬼平・丹波哲郎編～ 第三弾～三代目鬼平・萬屋錦之介編～」について

(2) 報告事項: 日本映画専門チャンネル「8.15終戦の日 未来に伝える太平洋戦争の記憶」について

5. 議題(1) 2024年に時代劇専門チャンネルで始まる新シリーズ『鬼平犯科帳』。五代目長谷川平蔵を担う松本幸四郎を招き、歴代の『鬼平犯科帳』を振り返る特別番組シリーズを展開している。2021年5月には初代鬼平の松本白鸚版を語る特別番組第一弾を放送し、2022年3月には第二弾で二代目の丹波哲郎を、8月には第三弾で三代目の萬屋錦之助を取り上げた。冬には四代目鬼平の中村吉右衛門編を放送予定。審議対象となるのは第二弾と第三弾。共演者や殺陣を陰で支える東映剣会の視点も交えて、鬼平の撮影現場についてのトークを行った。

【審議のポイント】

1. 本番組の内容、構成は、視聴者や『鬼平犯科帳』ファンを満足させるものだったか
2. 本番組は、視聴者に新シリーズへの期待を抱かせるものになっていたか
3. 今後に向けた改善点はあるか

6. 議題(1) 審議内容 ※文中敬称略

- ・五代目の松本幸四郎は歌舞伎で大活躍し、演技力は申し分ないが、トークの受け答えが優等生っぽく、先代たちと比較するとあっさりしているので鬼平として視聴者に受け入れられるよう成長すること期待している。
- ・世間的には「鬼平＝吉右衛門」というイメージが強いため、新シリーズ開始までの残り2年で、幸四郎が成長する様子をしつこく取り上げるべきだ。
- ・各シリーズを全部見たのだが、どのシリーズにもそれぞれのおもしろさがあった。それだけに、特集番組を見ていると、チャンネルが幸四郎にプレッシャーを掛けすぎなのではと心配になった。

- ・鬼平は好きな作品だけに、熱量の高い映像や、俳優たちの細かな表情の印象が強すぎて、解説のトーク部分が平坦に感じられた。
- ・周囲が心配しなくても、過去シリーズを見て幸四郎なりに消化して、自分なりの鬼平を出そうと考えているはずだし、2024年放送までにたっぷり時間はあるし、撮影も始まっていない段階で、特集番組はタイミングが早いのではないだろうか。
- ・今回の番組は既に完成されているだけに、今後は視聴者層を新規開拓するならば、時代劇未経験の制作スタッフと俳優で時代劇を語るというような実験的な番組があってもいいかもしれない。
- ・視聴者に歴代の鬼平を見せることで「鬼平は一人ではない。」ということを印象付け、鬼平のイメージを相対化することが出来たのではないか。
- ・幸四郎は歌舞伎の世界で育っているのだから、役を受け継ぐプレッシャーへの耐性はあるに違いない。そうだとすれば番組中で萬屋も言う通り「俺は俺の鬼平をやるだけ」でいい。

これに対して弊社からの回答は以下の通りであった。

幸四郎に五代目長谷川平蔵役を依頼した際に、「生まれながら比較されているので比べられることには慣れている。それよりも、どうやって自分らしさを出すかをチーム一丸となって探りたい。」という提案された。しかしスケジュールが常に詰まっている方なので、特集番組を製作することで令和の鬼平を探るチャンスを捻出している。近年の映画製作は一般に公開まで5・6年かかるものだが、公開までにそのプロセスは開示されず、プロモーションは公開直前に集中される。しかし、時代劇専門チャンネルは視聴料で作品が成立しているので、長いストロークでプロセスを伝えたい。企画が立ち上がったから放送されるまで、時間をかけて、丁寧に五代目鬼平をみんなで盛り上げていきたいと考えている。

〈石原〉我々としては単なる宣伝番組に留まらず、独立した放送の番組として視聴者に楽しんでいただけるクオリティで作らなければいけないということは当然考えている。その上で、各委員の意見は次回作の制作にあたって参考になるヒントやアイデアが多分に含まれていた。また、時代劇を訴求し、新しい視聴者を獲得するという観点からもメソッドとして大変参考になる意見も多かった。いただいた意見を参考に今後も番組制作に励みたい。

7. 議題(2)報告事項

日本映画専門チャンネルでは毎年8月に太平洋戦争を描いたさまざまな年代の作品を7作品放送している。共通のテーマは「未来に伝える太平洋戦争の記憶」。今年は8月14日(日)に7作を放送した。ロシアによるウクライナ侵攻の影響で、今までより戦争の感覚が近く感じられる今、当チャンネルで映画を通じて過去の歴史を振り返り、平和の大切さを考える日であってほしいとの願いを込めて編成した。メイン作品は戦時中に戦意高揚を目的として製作された『ハワイ・マレー沖海戦』(42)と『加藤隼戦闘隊』(44)の4Kデジタルリマスター版のテレビ初放送。毎年視聴者からの評価が高い企画だが、今年も視聴率、加入率も高い数字を出せた。

8. 連絡事項

次回番組審議委員会は、2022年11月15日(火)16時より開催予定。コロナ感染状況により、オンライン開催になる可能性もあり。